

ジュリーの方針

「選手への情報」と
「裁量ペナルティの方針」を含む

2019年8月版

セクション A：選手への情報

1. 水上でのインシデントに対するジュリーによる抗議

- 1.1 通常、ジュリーは、グッド・スポーツマンシップ（RRS 2）の明らかな違反を目撃しない限り、第 2 章の規則違反に対して抗議はしません。ジュリーが抗議を検討する違反の例には、以下のようなことがあります。
 - (a) 意図的に規則違反したり、または、免罪される理由がないのに規則違反したことを知っていながら、適切なペナルティーを履行しない；
 - (b) 度々不必要に叫んだり汚い言葉かけたりして、他艇を威嚇する；
 - (c) チーム戦術、自艇の順位を損なってでも他艇の成績を良くするために行動する；
 - (d) 損傷または傷害、または明らかな有利獲得をもたらす、またはもたらす可能性のある帆走。

2. 外部の援助

- 2.1 RRS 41 は、その艇の準備信号から適用されます（RRS 41 および定義「レース中」を参照）。準備信号後にコーチまたは支援艇から指示を受けたり装備品を交換することは RRS 41 に違反しています。
- 2.2 コーチおよび他の支援艇がレースエリアに入ることが禁止されている場合、援助を求めたいレース中でない艇は、レースエリア外で待機するコーチまたは支援艇のところまで行かなければなりません。

3. 推進方法

- 3.1 World Sailing「RRS 42 の公式解釈」2018 年版は以下に掲載されています。
<http://www.sailing.org/raceofficials/rule42/index.php>
- 3.2 World Sailing「RRS 42 の公式解釈」に加えて、以下の点は RRS 42 の適用を理解するのに役立ちます。
 - (a) 通常、各ジュリーボートには 2 名のジャッジがいますが、ある艇が RRS 42 に違反したと確信すると、1 名のジャッジが黄色旗ペナルティーを伝えます。
 - (b) 艇がレース中に RRS 42 違反によりペナルティーを課された場合、その後レースが延期、リコール、または中止された場合、その艇は再開されたレースで競技することができます。ただし、すべてのペナルティーはその艇のペナルティー合計に算入されます。
 - (c) ジャッジはできるだけ早く RRS 42 ペナルティーを通知しますが、これは艇がフィニッシュラインを越えた後の場合もあります。これがその艇の最初のペナルティーの場合、艇はペナルティーを完了し、フィニッシュラインのコース側に戻ってからフィニッシュする必要があります。
- 3.3 選手はレース終了後にペナルティーの説明をジャッジに求めることができます。それは、水上でも陸上でも、またはジュリーオフィスにおいてジャッジとの会合の手配を依頼することでも可能です。

4. 救済の要求、艇の OCS、UFD または BFD 記録におけるレース委員会の過ちに対する申し立て

- 4.1 選手は、レース委員会がどのように得点記録したかに異議を申し立てたい場合があります。その場合、その選手は、抗議締切時間内に得点照会を作成し、レース事務局に提出しなくてはなりません。レース委員会 (RC) は、照会に対応する前に、それらの証拠を選手と共有するよう準備する必要があります。選手が得点照会に対するレース委員会の回答に満足していない場合、選手は可能な限り速やかに救済要求を出すことをお勧めします。得点照会書は、救済要求に添付しなければなりません。

大会が得点照会手続きを準備していない場合、選手は抗議締切時間内に、または結果が公表された後、合理的にできるだけ早く救済要求を提出しなければなりません。

- 4.2 そのような救済要求の審問において、選手はレース委員会が誤りを犯したという証拠を提供しなければなりません。ビデオの証拠、または異なる得点とされた 2 艇の相対的な位置が、レース委員会が誤りを犯したことを証明することはめったにありません。事実認定においては、プロテスト委員会は証拠の重みによって判断を下します。World Sailing ケース 136 を参照してください。

5. 救済の要求—B5. 62. 1 (b) に基づく RS:X

- 5.1 RRS B5. 62. 1 (b) に基づき救済要求するボードは、第 2 章の規則違反を犯した、または適切なペナルティー履行を行った、またはペナルティーを受けた、他のボードの行動によって転覆が引き起こされたことを証明しなければなりません。それは要求しているボードがこのケースをジュリーに証明することであり、そして選手は審問において独立した証人を呼ぶことが彼らのケースを支持するかどうかを熟考すべきです。

6. ビデオとトラッキング記録

- 6.1 ビデオまたはトラッキング記録を審問に持ち込むことを希望する当事者は、その証拠を見るために必要な機器を準備する責任があります。審問の間、インターネット接続は一般的に利用できません。すべての当事者とジュリーパネルが同時に証拠を見ることができるようになるべきです。
- 6.2 利用可能な場合、ラッキングシステムの情報が提示される場合がありますが、精度は限られています。提示される画像は、視聴者への補助として実際のデータから誇張されています。このシステムは、可視化のために艇の位置表示を取得することには使用できますが、正確な位置情報を必要とするレースの管理目的またはジュリーの決定に使用するには十分に正確ではありません。

7. 審問のオブザーバー

- 7.1 各当事者は、ジュリーパネルが特定の場合に不適切であると決定しない限り、審問を傍聴するために 1 名を連れてくることができます。オブザーバーは、「オブザーバーのための情報」というタイトルの書面に署名し、その要件を遵守する必要があります。

8. RRS 69

- 8.1 審問で真実を述べないことを含むあらゆる不正行為は、スポーツマンシップの違反であり、RRS 69に基づくヒアリングおよび非常に重いペナルティーにつながる可能性があります。

9. ジュリーの手順と方針に関する質問

- 9.1 競技者、チームリーダー、コーチは、手順や方針についてジュリー委員長と話し合うことができます。委員長は通常、抗議の時間中にはジュリールームで応対するか、またはジュリーオフィスを通じて連絡をとることができます。

10 審問中の電子機器の使用

- 10.1 当事者、オブザーバー、証人による、メモ書きや規則・ケースの確認などのための電子デバイス（タブレット、スマートフォン、および同様のデバイス）の使用は、デバイスが録音または他者との通信に使用されない条件であれば、審問中に許可されます。審問の開始前に、ジュリーメンバーはこれら全てのデバイスがフライトモードに設定され、wifi と Bluetooth がオフになっていることを確認します。

セクションB：ジュリーの内部方針

1. 質問に答える

- 1.1 質問に答えるときは、常に別のレース役員と一緒にいることが望ましいです。別のジャッジが同行する場合：
 - (a) 陸上では：ジャッジは抗議に関係の無いレース規則の適用に関する質問に答えることができます。ただし、規則の解釈、帆走指示書、またはクラス規則を含む質問は、書面でジュリーに提出する必要があります。
 - (b) 水上では：ジャッジは規則 42 のペナルティーやメダルレースコールについて競技者と自由に話し合うことができます。そのような会話が長くなったり、白熱した場合は、競技者にジュリーオフィスに来て議論を続けるように頼んでください。可能であれば、競技者とは英語で話してください。
 - (c) 陸上および水上では：主な会話はジャッジの1人と競技者の間で行われるべきです。2番目のジャッジは議論を傍聴するだけで、必要に応じて状況を鎮めるのに役立ちますが、混乱を招く可能性があるため、説明しようとししないでください。競技者またはコーチとの個人的な会話は避けてください。

2. ジュリーからの抗議と水上でのインシデントの観察

参照：セクションBの選手への情報

- 2.1 水上での規則を守る基本的な義務は選手にあり、艇が水上において自発的にペナルティーを履行する機会がなくなるため、通常、ジュリーは第2章の規則違反に対して抗議はしません。
- 2.2 抗議を提出するかどうか決定を下すために、艇に対するジュリーの抗議の理由をジュリー・チェアマンまたはバイス・チェアマンに速やかに通知してください。その抗議の意思は抗議のタイム・リミット前までに掲示され、同じ時間内に抗議が提出されなければなりません。ただし、ジャッジが時間内に陸上に戻ることができない場合、タイム・リミットを延長することができます。ジャッジが水上に留まらなければならない場合、そのジュリーが抗議の意思を掲示できるように、可能であれば基本的な情報を陸上に伝える必要があります。
- 2.3 インシデントをよく知り証人となる情報を持つジャッジは、ジュリーによる抗議が適切かどうかを決定する場合を除き、メモを取り、インシデントについて他のジャッジと議論することを避けてください。審問に参加する水上でのインシデントを目撃したジャッジは、レース番号、レグ、場所、関係する艇をジュリー・セクレタリーに知らせてください。

3. オブザーバーの管理

参照：セクションBの選手への情報

- 3.1 一般的に、その方針は審問でオブザーバーを許可することです。ただし、広さや座席の配置によって、招かれるオブザーバーの数が制限される場合があります。この場合、座席は次の順序で埋められます。
 - (a) 各当事者によって指名された1名のオブザーバー。
 - (b) 1名のメディア関係担当者。

- (c) 他の競技者またはその代表者（競技者ごとに1人）。ただし、要求されるすべての座席を提供するのに十分な広さがない場合は、許可されません。
 - (d) スペースが許す限り、傍聴を望む大会技術役員。
 - (e) スペースが許す限り、追加のメディア担当者。
- 3.2 オブザーバーは、「オブザーバーのための情報」というタイトルの書面に署名し、その要件を遵守しなければなりません。パネル・チェアマンはオブザーバーにその「規則」を思い出させるべきです。

4. パネル判決の承認と掲示

- 4.1 書面によるパネル判決の質的管理の第1レベルは、事実、結論、判決、適用される規則が正しいことを確認する必要があるパネル・チェアマンにあります。判決が当事者に読みあげられた後、パネルスのクライブ担当者は判決を印刷します。パネル・チェアマンは最終確認を行い署名します。その後、すべての判決はジュリー・チェアマンまたはバイス・チェアマン、または書面チェック担当者によって精査されます。

5. 抗議の取り下げの許可

- 5.1 選手は、プロテスト委員会にその選手が提出した抗議や救済要求の取り下げの承認を求めることができます。そのような承認はプロテスト委員会の決定事項です（規則 63.1）。プロテスト委員会は、1名または複数のメンバーを任命して決定を下すことができます。もし、そのメンバーが疑わしい場合、フルパネル構成での決定に委託することができます。パネルが疑わしい場合は、ジュリー・チェアマンまたはバイス・チェアマンに相談してください。抗議や救済要求することは選手の決断であるため、通常、取り下げの要求は認められる必要があります。ただし、抗議取り下げの理由が有利を得るかまたは結果を操作することであるか、または抗議者が取り下げを要求するよう圧力をかけられたり脅迫されたりした可能性がある場合、ジャッジまたはパネルが確信する場合、承認は与えられません。

6. 救済

- 6.1 救済が与えられた艇は、その艇がその順位でフィニッシュした可能性が高い場合、フィニッシュ順位で得点されるべきである。これは、インシデントがレースの後半で起きたか、または艇がフィニッシュ後に起きた場合に、可能性が最も高くなります。その他の場合には、平均ポイントが適切です。
- 6.2 平均ポイントを計算するための推奨方法：
- (a) シングルフリートシリーズ ケース 01：オープニングシリーズの最終日前のレースでの救済に対して、『「すべてのレース」を「AからBまでのすべてのレース」に置き換えた規則 A10 (a) に基づく平均ポイント』を与える（Aはオープニングシリーズの最初の日、Bはオープニングシリーズの最終予定日の前日）
 - (b) シングルフリートシリーズ ケース 02：オープニングシリーズの最終日のレースでの救済に対して、『「すべてのレース」を「オープニングシリーズのすべてのレース」に置き換えた規則 A10 (a) に基づく平均ポイント』を与える。

- (c) スプリットフリートシリーズ ケース Q1 : 予選シリーズの最終日前のレースでの救済に対して、『「すべてのレース」を「AからBまでのすべてのレース」に置き換えた規則 A10 (a) に基づく平均ポイント』を与える (A は予選シリーズの最初の日、B は予選シリーズの最終予定日の前日)
 - (d) スプリットフリートシリーズ ケース Q2 : 予選シリーズの最終日のレースでの救済に対して、『「すべてのレース」を「予選シリーズのすべてのレース」に置き換えた規則 A10 (a) に基づく平均ポイント』を与える。
 - (e) スプリットフリートシリーズ ケース F1 : 最終シリーズの最終日前のレースでの救済に対して、『「すべてのレース」を「AからBまでのすべてのレース」に置き換えた規則 A10 (a) に基づく平均ポイント』を与える (A は最終シリーズの最初の日、B は最終シリーズの最終予定日の前日)
 - (f) スプリットフリートシリーズ ケース F2 : 最終シリーズの最終日のレースでの救済に対して、『「すべてのレース」を「最終シリーズのすべてのレース」に置き換えた規則 A10 (a) に基づく平均ポイント』を与える。
- 6.3 フィニッシュ順位がある艇に平均ポイントが付与されるすべてのケースにおいて、「Nより悪くならない」を追加します (Nは艇のフィニッシュ順位)。
 - 6.4 救済の場合、World Sailing ケース 116 の回答 2 にある「艇の得点の半分以上は、その艇がスタートしたレースでのフィニッシュ順位に基づく」の制限内でのみ、艇は救済を認められるべきです。
 - 6.5 適切な救済措置が何であるかを決定する前に、実行可能な場合、パネルは決定を下す前にジュリー・チェアマンまたはバイス・チェアマンに相談する必要があります。すべての救済判決を、できるだけ早くジュリー・チェアマンまたはバイス・チェアマンに報告してください。

7. フリートの他艇に影響を与える救済

- 7.1 パネルは、救済から起こりうる結果がフリートの大部分のフィニッシュ順位に影響を与える可能性があることに気付いた場合、審問が開始されていたとしても、ジュリー・チェアマンまたはバイス・チェアマンに相談する必要があります。

セクション C : 裁量ペナルティの方針

1. 全般

- 1.1 違反に対する適切なペナルティを決定する裁量がジュリーにある場合、そのペナルティはゼロ点から DNE の範囲に及びます。ペナルティの決定に、ジュリーはこの文書を用います。
- 1.2 裁量ペナルティは単なる標準ペナルティのリストではありません。ペナルティは、一貫性を保ちながら、状況に応じて調整する必要があります。全体的な考え方は、特定の違反に対する基本的なペナルティを決定し、次に状況に応じてペナルティを増減するということです。
- 1.3 推奨される基本ペナルティは添付の 2 つの表に記載されています。これらは、一般的な特定の違反の基本バンドと、特定の違反がリストされていない場合に使用される一般的な質問への回答を示しています。特定の違反に対するペナルティの領域が提案された場合は、その一般的な質問を使用して、特定の違反に対するバンドを決定します。
- 1.4 ペナルティは 4 つのバンドに分けられ、その中点は通常の基本ペナルティです：
 - (a) バンド 1 - 0-10% (中点 5%)
 - (b) バンド 2 - 10-30% (中点 20%)
 - (c) バンド 3 - 30-70% (中点 50%)
 - (d) バンド 4 - DSQ / DNE (初期値 DSQ)
- 1.5 先ず、以下の表を使用して適用されるバンドを見つけます。「基本ペナルティ」がバンドの中点だと考えてください。次に、バンド内のペナルティを増加または減少させる理由があるかどうか、またはバンドを変更するかどうかを判断します。
- 1.6 以下の質問に対する肯定的な回答は、ペナルティの軽減につながります。
 - (a) 違反は偶然であったか？
 - (b) 違反せざるを得ない事情やもっともな理由があったか？
 - (c) 違反は競技者自らから報告されたか？
 - (d) その艇の乗員や支援者以外の誰かが、その違反行為の原因となったか？
- 1.7 以下の質問に対する肯定的な回答は、ペナルティの加重につながります。
 - (a) 違反は繰り返されたか？
 - (b) 違反は、判断ミスや不注意ではなく、意図的であったか？
 - (c) 違反を隠そうとしたか？
 - (d) 誰かに迷惑をかけたか？
- 1.8 ジュリーはペナルティを加重すべきか軽減すべきかを決定するために、その他の質問をすることができます。
- 1.9 ペナルティを計算して適用するには：
 - (a) 裁量ペナルティは、リタイアまたは DSQ の得点より悪くはならない。
 - (b) パーセンテージペナルティは、小数点以下第 2 位を四捨五入する。
 - (c) 違反が艇の性能に影響した場合、抗議が全てのレースにおいて有効である限り、影響した全てのレースにペナルティが課される。

(d) 違反が艇の性能に影響なく、とりわけ大部分が手続き上の問題であった場合には、規則 64.1 に定める通り、ペナルティーはそのインシデントに時間的に最も近く帆走したレースに課される。

- 1.10 裁量ペナルティーを適用する場合の判決文には、以下のような記述を含めてください。
- (a) 「DP ガイドに基づき、出発点を xx%と決定した。」
 - (b) 「……であったので、ペナルティーを軽減した。」または「ペナルティーを軽減すべき事情はなかった。」
 - (c) 「……であったので、ペナルティーを加重した。」または「ペナルティーを加重すべき事情はなかった。」
 - (d) 「ペナルティーは xx%とし、[当日の全レースに]または[第 yy レース]に適用される。」

2. 裁量ペナルティーの基本ペナルティーバンド

- 2.1 通常はバンドの中央値が基本ペナルティーとなります。
- 2.2 リストにない違反行為やバンドが範囲で提示されている場合は 2 番目の表を参照してください。
- 2.3 その違反行為には裁量ペナルティーの適用が認められていることを確認すること。

安全性	
・ 陸上に残るときにレース事務局に通知しなかった。	1
・ リタイア報告の要件を順守しなかった（未通知、報告書の未提出、抗議タイム・リミット後の報告書提出、または出艇・帰着の申告漏れ）	1
・ 違反により捜索や救助活動が発動された場合	4
・ 係留-指定された場所にいなかつたが、主催団体に自ら申し出た艇	1
・ 係留-即座に主催団体に申し出なかつた艇	2
・ 商業船航路を回避していなかつた	1-4
・ レースをしていないときの個人用浮揚用具の長い期間の未着用	1-2
行動規範	
・ 大会役員の妥当な要求に応じなかつた	2-4
・ 指示に従わなかつた、適切な注意を怠つた、または付属機器の機能を妨害した	1-4
離 岸	
・ 陸上に留まる指示に従わなかつた（例：AP over H、D 旗）	1-4
スタート	
・ スタートエリアを回避しなかつたが、レース艇は妨害しなかつた	1
・ スタートエリアを回避せず、RRS 24.1 に違反した	4
装備の検査	
・ 指示に従わなかつた-せざるを得ない事情やもっともな理由がある	1
・ 指示に従わなかつた-せざるを得ない事情やもっともな理由がない	3

乗組員または機器の交換	
・指示に従わなかった-せざるを得ない事情やもっともな理由がある	1
・指示に従わなかった-せざるを得ない事情やもっともな理由がない	3
・乗員または装備を不適合な乗員または装備に交換した	4
識別と広告	
・必要に応じてイベントステッカーを貼り付けていない（広告、バウ番号、識別マークなど）	2-4
・イベントステッカーは貼り付けてあるが、正しい位置ではなかった（主催団体から提供された場合は0%）	1
・必要に応じてbibを着用しなかった	1-2
・国旗を貼り付けていなかった	1
・国旗は貼り付けてあるが、正しい位置ではなかった	1
・国旗は貼り付けてあるが、クラス規則に従い承認されたメーカーによって製造されたものではなかった	1
無線通信	
・全ての艇に利用可能でない、無線やデーター、または携帯電話のメッセージの送受信を行った	3
ごみ処理	
・意図的にゴミを廃棄した	4
ポジショニング装置	
・必要に応じて、または出艇・帰着申告において、装置の回収または返却をしなかった	1
・設置されていないか、または設置説明書に従っていない	3
・装置は設置されていたが、その機能が妨害されていた	4
クラス規則	
・セール番号と国を示す文字に不備があった	1
・セールストッパー（ブラック・バンド）が無い、または適切ではない位置にあった	2
・バンドを越えてセールを展開した	3
・製造業者が供給および統制する装備を改変した	3
・禁止されるハル/フォイル表面の整形または再仕上げを行った	4
・登録されていない装備を使用した（ただし認証されている）	3
・安全装備の非搭載、または、不適切な安全装備であった	1-4
・禁止されたGPSまたはその他の電子機器を使用した	4
・認証されていない装備を使用した	4
・補正おもりがない、または、正しくない位置にある	4
・規定された許容範囲を超える装備（損傷または通常の損耗を除く）	
○艇速に影響する可能性がなかった	1
○艇の性能に影響する可能性はあるが、明らかでは無かった	2
○艇の性能に明らかな影響がある	4

3. 一般的な質問

3.1 上記の表に特定の違反がない場合、または上記の表において複数のバンドを示している場合に使用します。

違反行為が危険を及ぼす可能性があったか？	
いいえ	1
及ぼす可能性はあったが、確かではない	2-3
はい。	4
その艇が、競技上の有利を得ていないことを証明できますか？	
はい、有利を得た可能性はなかった	1
いいえ、有利を得た可能性はあるが、明らかではない	2-3
いいえ、明らかに有利を得た	4
その違反行為が、セーリング・スポーツの名誉を傷つける可能性があったか？ (注：スポーツの名誉を傷つけ可能性があるとジュリーが判断し、特に他の規則が適用されない場合、RRS 69に基づく処置を検討する。)	
いいえ	1
懸念されるが、確かではない	2-3
はい。	4
その違反行為が損傷や傷害を引き起こす可能性があったか？	
いいえ	1
可能性はあったが、確かではない	2-3
はい。	4

セクションD：支援者と艇に対する裁量ペナルティの方針

1. 全般

プロテスト委員会が審問において、支援者が規則または現地の規則に違反したと判断した場合、RRS 64.4は、支援者へのペナルティや明らかな場合には艇へのペナルティを規定しています。裁量のペナルティは、単なる標準ペナルティのリストではありません。一貫性を維持しながら、ペナルティを正当なものとして調整する必要があります。全体的な概念は、特定の違反に対する基本的なペナルティを確立し、状況に応じてペナルティを増減することです。不正行為の場合、支援者と支援艇に対するペナルティはRRS 69に従って決定されます。

2. 支援者に対する裁量ペナルティ

2.1 ペナルティは次の5つのレベルに分けられます。

レベル1：警告

レベル2：その支援者を1レース以上、出艇させない

レベル3：その支援者を1日以上、出艇させない

レベル4：その支援者を1日以上、大会会場に入れない

レベル5：その支援者を残りの大会期間中、大会会場に入れない、および/または、RRS 69に基づく不正行為でその支援者を告発するなど、規則の規定に従ってプロテスト委員会の権限内でその他の措置を講じる。

2.2 裁量ペナルティーの基本ペナルティー

安全性	レベル
・すべての安全装備を搭載していなかった	2-4
・支援者への通告後に従わなかった	4-5
・乗艇する全員分の十分なライフジャケットを搭載していなかった	3-5
・ライフジャケットを着用していなかった、または水上において乗客がライフジャケットを着用しないままであった	1-3
・最初の警告の後、遵守しなかった	3-4
・水上においてキルコードを装着していなかったが、初めてであった	1-3
・最初の警告の後、従わなかった	3-5
・適切な保険に加入していなかった	3-5
・指定されたドライバーは、モーターボートの運転免許証を持っていない	3-5
・認められていない人員が乗艇していた	2-4
・機器、機器の一部、ブイ、標識、または同様の物品を永久に水中に放置した	3-5
・ボートエンジンまたは船体に MNA の識別を表示していなかった	2-4
・制限速度を含む地元ハーバーの規制を順守しなかった	1-5
・不適切な行動、危険な行動または不適切な慣行、または競技の公平性または安全性に影響する行動に関与した	3-5
セーリング会場と制限区域	
・進水または着岸のために指定されたエリアを使用しなかった 禁止された区域に駐車またはトレーラーを置いたままにした	1-2
・セーリング会場内に未登録の支援艇がいた	3-5
・立ち入り禁止区域の外に留まらない、または指定区域内に留まらなかった	3
・レース中のボートに干渉した	3-5
・レース中のボートの近くで引き波を最小限にしなかった	1-3
・故意にゴミを水中に捨てた	3-5
電子機器と通信	
・VHF ラジオ、タブレット、携帯電話、またはその他の通信機器の不正使用	2-5
・VHF を介した不適切な通信 (RC への妨害)	1-2
・冒とく的な表現または口汚い表現 (RC、TC、OA、プロテスト委員会または他の支援者に対して)	1-5
・許可なくドローンを操作した	2-5
・技術的なドーピング：情報 (すなわち気象)、ハードウェア (すなわちボート)、および選手を含む、パフォーマンスを向上させるための非倫理的な方法や技術などを使用した	2-5
その他	
・その他の指示に従わなかった	1-4
・レースオフィシャルからの合理的な要求に応じなかった	1-5

3. 艇に対する裁量ペナルティー

- 3.1 プロテスト委員会は、RRS 60.3 (d) または 69 に基づき支援者の違反における審問の当事者である艇に対して、あるレースでのその艇の得点を DSQ 以下に変更することによりペナルティーを与えることもできます。ペナルティーを決定する際、プロテスト委員会はこの文書に基づきます。
- 3.2 ペナルティーは4つのバンドに分割され、中間点は通常の基本ペナルティーです：
- (a) バンド 1 - 0-10% (中間点 5%)
 - (b) バンド 2 - 10-30% (中間点 20%)
 - (c) バンド 3 - 30-70% (中間点 50%)
 - (d) バンド 4 - DSQ
- 3.3 先ず、以下の表を使用して適用されるバンドを見つけます。プロテスト委員会は、ペナルティーを増加または減少すべきかを決定するために他の質問をすることができます。「基本ペナルティー」がバンドの中間点にあると考えてください。

その艇は競技上の有利を得たか？	バンド
有利を得た可能性はない	1
有利を得た可能性はある	2-3
はい、明らかに有利を得た	4
プロテスト委員会が事前の審問に続いてペナルティーが課せられる可能性がある」と書面でその艇に警告した後、支援者が更なる違反を犯した。その違反行為により損傷または負傷が発生する可能性はあったか？	
いいえ	1
及ぼす可能性はあったが、確かではない	2-3
はい	4
その違反行為により安全性が損なわれる可能性があったか？	
いや	1
可能だが確かではない	2-3
はい	4
その違反行為がセーリング・スポーツの名誉を傷つける可能性があったか？	
いや	1
可能だが確かではない	2-3
はい	4

ペナルティーを計算して適用するには：

- (a) 裁量ペナルティーは、リタイアまたは DSQ の得点より悪くはならない。
- (b) パーセンテージペナルティーは、小数点以下第 2 位を四捨五入する。
- (c) その違反が競技上の優位性に影響を与えた場合、影響した全てのレースにペナルティーが課される。

(d) その違反が競技上の優位性に影響を与えない場合には、規則 64.1 に定める通り、ペナルティーはそのインシデントに時間的に最も近く帆走したレースに課される。

3.4 プロテスト委員会は、違反に対して適切なペナルティーを決定する裁量権を持ちます。それは、警告を与えることから当事者を大会から排除することまで、または当事者が有する特権または特典を剥脱すること、または規則で定められた権限内で他の処置を取ることです。

以下の質問に対する答えによって、ペナルティーを増加または減少させる理由があるかどうかを判断します。

以下の質問に対する肯定的な回答は、ペナルティーの軽減につながります。

- (a) 違反は偶然であったか、または回避できなかったか？
- (b) 違反せざるを得ない事情やもっともな理由があったか？
- (c) 支援チーム以外の誰かが、その違反行為を犯したか？
- (d) 支援者は違反を認め、調査に貢献したか？

以下の質問に対する肯定的な回答は、ペナルティーの加重につながります。

- (a) 違反は、判断ミスや不注意ではなく、意図的であったか？
- (b) 違反を隠そうとしたか？
- (c) 誰かに迷惑をかけたか？
- (d) 支援者は更なる違反を犯したか？

プロテスト委員会は、ペナルティーを加重すべきか軽減すべきかを決定するために、その他の質問をすることができます。

4. 判決の記述

裁量ペナルティーを適用する場合の判決文には、以下のような記述を含めてください：

- (a) 「DP ガイドに基づき、出発点を xx% と決定した。」
- (b) 「……であったので、ペナルティーを軽減した。」または「ペナルティーを軽減すべき事情はなかった。」
- (c) 「……であったので、ペナルティーを加重した。」または「ペナルティーを加重すべき事情はなかった。」
- (d) 「艇のペナルティーは xx% とし、[当日の全レースに]または[第 yy レース]に適用される。」

Ariadne House, Town
Quay Southampton, SO14
2AQ United Kingdom

Tel: + 44 (0)23 80 635111

Fax: + 44 (0)23 80 635789

www.sailing.org

sport / nature / technology



World
Sailing